関係構造による高齢者コミュニティの空間構成の研究

SPACES COMPOSITION OF THE ELDERLY COMMUNITY BASED ON STRUCTURES OF HUMAN RELATIONS WITH OTHERS

三宅英一郎 — *1
川崎 清 — *2Eiichiro MIYAKE
Kiyosi KAWASAKI

Elderly community spaces and their care places for people are spaces where human beings live. They are not functional spaces where are intended for adaptability for the purposes but general living spaces. Introducing two method concepts which one is to analyzes dialectically relationship between an human action and a space which is mediated by structures of human relation with others, the other is a typical space concepts that compose the whole space and its elements, this paper systematizes the order of living functions of elderly community spaces and organizes their spaces composition as the general living spaces for human beings.

キーワード：

個人存在としての関係性、性または家族としての関係性、共同社会の成員としての関係性、行動と空間の弁証法、機能の発見、背景空間

Keywords：

Human relation as being individuality, Human relation as being gender or a family, Human relation as being social coexistence, Dialectic of an action and a space, Finding functions, Back ground spaces

まえがき

高齢者のコミュニティ空間の生活機能の分析と体系化の既往の研究¹⁾は、高齢者の居住施設を目的機能空間と概念化した上で、老人の行動とさまざまな物的施設と人的サービスとを、二つの外在的な要素として捉え、要素相互の適応性の分析を目的として行われてきている。しかし、高齢者の介護の場は人間存在の空間であり、目的機能空間ではなく、普遍的な生活空間であると考えられる。

本稿では人間の他者に対する関係性の構造を媒介として、人間的行動と空間の関係を弁証法的に分析する方法概念¹⁾と全体と部分を構成する典型空間の空間概念を導入して、普遍的な生活空間としての高齢者のコミュニティ空間の生活機能の秩序の体系化と空間構成の研究を設計事例の経験を通じて試みている。その方法概念と分析結果を以下に報告する。

1. 関係構造による行動と空間の分析

私たちの生活慣習と同時に、文化としての人間関係の、社会における現実について、ジョン・レックス²⁾は、次のように記述している。「五歳の子供の世界をご覧ください。親子関係、近隣関係、言語社会、同じ宗教を持つひとたちとの関係、死者、先祖、地域社会の源流についての話。こういったものに囲まれて、人は立ち現われてくる。だれも純粋な個人では有り得ない。人間であるとはそういったくもろもろのきずな>を含んでいる。」くもろもろのきずな>とは、ここでは、人間の関係性の体系すなわち関係構造と読まれるべ

きであり、人間の行動と知覚が最初に向けられるのは、他者の行為を対象とするのであって、自然的対象に向けられるのはより高度な意識に属している。人間の行動と知覚にとっては人間的意味の方が感覚記号よりも先に与えられているのである。

人間の行動と空間の知覚が他者への人間関係によって構造化されている身体的現実を、メルロ・ポンティは次のような意味として表現している。「人間の初発段階の知覚は、他者の存在につきまとわれて、他者の行為とその対象物に向けられており、自然的諸物一般に対する知覚は成人するにしたがって志向される。」³⁾人間の意識の他者に対する関係性のシステムを関係構造と定義してそのシステム分析を試みることにする。この関係構造は意識の存在形式の働きのことであり、高齢者を含む人間存在に普遍されているのである。

(1-1) 関係構造の第一の次元・一人の関係性

基本的な実在であり、関係構造の第一の次元の在り方は、〈自由な〉個人としての人間、個人存在の形式としての関係性である。

私ひとりが、身体の運動と表現を媒介として、私を取り囲む全ての他者及び自然的諸物と結ぶ、直接的な関係の諸相の在り方である。個としての存在として自由に思考し、意欲し、行動することを願い、自己充足のために生きている。人間は、実りの果てに枯れる植物が残してくれる実をまた地中に埋めることによって再び同じ植物が生成することを自覚したとき、自然の中に生成して流れる時間の意味を意識したと思われる。個としての人間として、子が育ち、老死を迎え、人間もまた自然と同じように、時間の生成に従うこと

*1 立命館大学理工学部環境システム工学科 助教授・工修
(〒525 草津市野路東1-1-1)

*2 立命館大学理工学部環境システム工学科 教授・工博

*1 Assoc. Prof., Civil and Environmental Systems Engineering, Biwako Kusatu Campus, Ritumeikan University, M. Eng.

*2 Prof., Civil and Environmental Systems Engineering, Biwako Kusatu Campus, Ritumeikan University, Dr. Eng.

を意識したであろう。個人存在としての私たちの生の諸相は自然的時間性に従っており、生命代謝的、思考的、感覚的な知覚意識がその基礎を構成している。

(1-2) 関係構造の第二の次元・二人の関係性

関係構造の第二の次元の在り方は、私たちが性としての人間として固有二人の男または女として結ぶ関係性である。それは個人として独立した人間関係ではなく、二人の個的な生による相互関係性である。これは家族の関係性と呼ばれ、人間は男か女として、夫婦とか、親子とか、兄弟姉妹とか、親族とかよばれる人間関係の構造のなかにおかれる。女性が子を妊娠し、分娩し、男性の分担も加えて育て、成人させるという〈二人の関係性〉の時間性は自然の時間性とは異なった意識として自覚され、自然の時間性を基底とした、脱・自然的時間性と言うことができる。それは、〈自分の現実を他者のうちに持っている〉恋人、友人、など〈二人の関係性〉において相互に依存している人間関係へ拡がり、覆っている。

この〈二人の関係性〉は、情念という持続する感情を基礎としている。二人の、愛しあう、または、憎しみあう関係の在り方は、〈二人の関係性〉のみが作りだし、その外部にある他者や自然的世界を排除して閉鎖しており、独自の意識的領域であるプライバシーの空間を構成している。

(1-3) 関係構造の第三の次元・三人の関係性

人間の関係構造の第三の次元は、三人の関係性である。すなわち、A・Bの二者関係がCを排除せず、A・C、B・Cの二者関係が、それぞれB、Aを排除しないという、三つの条件が同時に成立することを前提とする関係構造である。三者関係が確立している場においては、三者以上においてもこの関係構造が論理的に成立する。これは人々の中で各個人が役割を持つ自己表現が行われている人間関係のシステムである。すなわち、それぞれの個人の身体の自己表現の交換が成立し、各関係性が等距離である関係システムであり、共同社会関係の空間である。〈三人の関係性〉としての関係構造というものは、〈自然〉の贈り物の形で、人間に与えられる社会の形態ではなく、人間が骨折って作り上げてゆかねばならないものであり、真の意味での創造行為⁴⁾である。それは、自然の時間性によって生成されるのではなく、人間の知的想像力という反・自然的時間性によって生まれる。

共同社会の成員としての人間の存在形式の次元の始まりの神秘について、オルテガ・イ・ガセットは、ギリシャ・ローマの都市共同体ポリス・ウルブスの発生を次のように記述している。

「原野の一部を壁で囲み、無定形で無限の空間に対して、閉鎖された有限の空間を作ればよいのだ。こうして広場ができあがる。広場は、家のように原野に存在する内部空間ではなく、まさに、原野の否定そのものである。…無限の原野から分離し、原野に対して身を構える、この小さな反逆的な原野は言わば廃止された原野であり、従ってそれは、全く新しい空間であり、その中で人間は、植物や動物とのあらゆる結び付きから自己を解放し、純粋に人間的な別世界を創造したのである。⁵⁾」

人間存在の形式の第三の次元の〈三人の関係性〉は、超・個人の存在形式であり、同時に超・家族としての存在形式の関係構造である。

(1-4) 高齢者のコミュニティ空間における関係構造の体系

私たちが、この世界に生きること、すなわち、生活環境において知覚し、行動することは、自己と他者に対する関係構造の生成と発見である。関係構造の三つの次元は、私たち一人一人にとって、時間的および空間的に独立して生かされているのであり、その関係構造の次元のどれもが、欠落したり、他の二つに従属したりしてはならない。このことは私たちの存在の形式には、三つの独立した次元の位相があり、生活環境の意味の三つの基本となる秩序を構成していることを意味している。私たちは、関係構造の第一の次元である、自由な個人としての自由意思が尊重され、第二の次元の、性としての人間から生まれる愛が満たされ、第三の次元の、共同社会の成員としての公正が行使されることによって、人間存在の形式を生きているのである。

2. 行動と空間の弁証法による高齢者コミュニティの生活機能の発見と関係構造による秩序分析の方法概念

(2-1) 行動と空間の弁証法による高齢者コミュニティの生活機能の発見

空間の計画行為は、他者の行動への共感と願望の可能性として存在するのであって、例えば、私たちは空間の中に、人々が〈何か座れそうな物〉を作り、行動と空間の弁証法的な関係¹⁾によって人々がそれを発見し、そこに座るであろうことを共感とともに願望する行為である。人々を機械的に座らせるために椅子を作るのではない。行動と空間の関係が機械的ではなく弁証法的なのである。生活機能の発見の構造とは、行動と空間の弁証法であり、また同時に、座るという機能の発見と行動が、自分自身の一人の行為であれ、他者と一緒に座るのであれ、〈自己-他者〉の関係構造の新しい態度がそこに創造され、開示されているのである。

機能という生活空間の意味が、アブリオリに客観的理念として存在して、それに適応するように機械的に即物化された空間の中で、人間の行動が一義的に行われるのではない。人間の関係構造によって発見される高齢者のコミュニティの生活機能は、人間的行動と空間の構造の意味の創出という主体的な生活機能の発見行為となるのである。〈眠りたくなるような場所〉、〈働きたくなるような場所〉、〈何か食べたくなるような場所〉、〈病気や不安を癒して貰えそうな場所〉等、行動と空間の弁証法によって機能を発見して貰えそうな場所の関係性のシステムの総体が高齢者コミュニティの生活機能である。

建築家は設計行為における想像のコミュニティ空間を自分自身の身体で生き、運動し、そこに住み込めば発見し、経験し、現前するであろうと思われる精神状態や行動状態を言葉で探し、それを弁証法的関係において空間に重ね合わせて、人間の行動を、身体の運動と表現感覚による空間の開示として表現するのである。

(2-2) 関係構造による空間の秩序

同じ空間にいるものは、同じ関係性を生きている。高齢者のコミュニティの空間においては、高齢者および職員の空間も、共にコミュニティの空間を生きている関係構造の空間として、理解されなければならない。従って、高齢者と職員の行動を受益者と奉仕者として、目的論的に分類して、機能主義的目的行動に還元することは、本稿の論述では行わない。たとえ社会制度上の職業として遂行されとしても、人間の関係構造における行動の本質は、その行動

表－１ 高齢者コミュニティ空間の関係構造による生活機能の構成

関係構造・一人の関係性

一人の関係性における人々が、空間で発見して欲しい、計画者から他者への志向性としての生活機能

生活機能の発見	行動	空間
知覚と意味	精神状態と行動状態	施設・環境
☐ 感覚・思索の経験 樹木、風、静寂 散歩 空想、瞑想 ☐ 自己充足 運動 泳ぐ 競う 学習、創作 仕事 ☐ 孤独の絶対性 孤独と慰め 祈り 不安苦痛との闘い 定期健康診断 期待 相談、安心 ☐ 生命的行為 食べる 眠る 生命代謝活動	<p>自然との出会いによる自由な休息と想像力の解放 歩くことによる想像力の解放 想像力を媒介とする世界経験</p> <p>自力運動 水中で重力が減少した自由感解放感 遊びのルールによる競争 世界の理解、自己表現活動 自己実現</p> <p>生の孤独と他者への思いやり 絶対的存在への祈り 不安苦痛に直面する者への連帯 病気の早期発見と健康管理の指導 想像力による未来の設計 相談しアドバイスを受ける</p> <p>味覚による活動維持のための基本行動 活動のための十分な休息 食べ、飲み、入浴し、排泄する</p>	<p>緑道、広場、中庭、散歩道、路地、庭園、テラス、バルコニー 緑道、広場、中庭、散歩道、路地、庭園、廊下、出入口 庭園、池、ベンチ、図書館、資料室、メールボックスホール</p> <p>アスレチックジム、リハビリテーションホール、大浴場 温水プール テニスコート、温水プール、アスレチックジム、リハビリホール、娯楽室 アトリエ、ワークショップ、クラフトルーム、手芸室、農園、厨房、図書館 管理事務所受付カウンター、施設長室、応接室、図書館</p> <p>一人用住居、ケアセンター個室 祈りの空間 病院、診療所、スタッフ会議室 病院、診療所、診察室、検査室、X線室、健康相談室 管理事務所受付カウンター、メールボックスホール 管理事務所受付カウンター、施設長室、応接室、カウンセリング室、住居居室</p> <p>食堂、住居キッチン、コミュニティキッチン、コンビニエンスストア 寝室 食堂、配膳室、大浴場、便所、ごみ処理、コンビニエンスストア、住居</p>

関係構造・二人の関係性

二人の関係性における人々が、空間で発見して欲しい、計画者から他者への志向性としての生活機能

生活機能の発見	行動	空間
知覚と意味	精神状態と行動状態	施設・環境
☐ 思い出、夢 思い出 夢 ☐ 愛、憎 介助 ☐ 住む ☐ 接客、食事 ☐ 訪問滞在、交流 ☐ 秘密プライバシー 秘密 プライバシー	<p>想像力による過去の時間空間体験 眠りによる想像力の解放 固有の他者に対する、相互依存関係による愛、憎行為 助ける者が助けられる愛の関係性 プライバシーの確保された特定の空間のうちに生活する 親しい人、家族との食事、訪問による状況理解と交流 友人、家族に対する訪問、滞在、交流と宿泊室の提供</p> <p>鬱積した不満、不安に対する観察者からの感情解放 性的生活</p>	<p>ケアールーム、ケアセンター個室、一人用住居、二人用住居 ケアールーム、ケアセンター個室、一人用住居、二人用住居、職員住居 二人用住居、職員住居 デイルーム、病室、ケアールーム、在宅ケアステーション、リハビリホール 住居、職員住居、住居の玄関 食堂、カフェテラス、住居、家族室、和室、茶室、サロン ゲストハウス、家族室、生活サービスステーション、サロン、近隣の名所旧跡</p> <p>カウンセリングルーム、一人用住居、二人用住居 寝室、一人用住居、二人用住居</p>

関係構造・三人の関係性

三人の関係性における人々が、空間で発見して欲しい、計画者から他者への志向性としての生活機能

生活機能の発見	行動	空間
知覚と意味	精神状態と行動状態	施設・環境
☐ コミュニケーション コミュニティ情報 提供 作品発表 ☐ 出会い ☐ 会話、討議 ☐ 楽しむ 食事、喫茶 ☐ 解放感 ☐ 祝祭、政祭事 祝う、祭 政祭事 ☐ 共生、共助 助ける 援助、連帯 給食、配膳 在宅家事援助 カウンセリング 救急対策 ☐ 看護、介助 診察 治療 入院 リハビリテーション 見舞 食事介助 入浴介助 排尿排便介助 歩行介助 清しき洗髪介助 体位交換 家族交流 ケアプラン ターミナルケア 祈り 葬儀 死後ケア 研修、講演会 カリキュラム作成	<p>コミュニティ参加情報を提供し入居者の想像力を刺激する</p> <p>絵画、文、歌等の作品の公開による自己表現 予期せぬ人と物との出会い 言語活動を媒介とする社会的表現活動 人間関係の広がり 飲食を他者と共に味わうことの喜びの共有 仕事、労働からの解放</p> <p>他者と喜びを共有する コミュニティを共有し、律する観念的聖性の経験</p> <p>援助を必要とする人への自発的無償行為 自立生活を可能にするための援助活動 外食や自炊に伴う負担の除去による個有な社会生活の援助 居室の清掃・食事入浴排泄・買い物運搬等の援助活動 人間関係、財産管理に関する専門家による個人面談 急病時、災害時の緊急対応 心身の自立生活が困難になった者へのケア活動 医師による病気の発見と対策 初期治療と専門病院への紹介 入院治療とターミナルケア 心身機能回復維持・社会関係活性化のための専門的指導 病にあるものに対する励ましと慰め 自力で食べられない者への給食介助 自力で入浴出来ない者への機能介助と入浴援助 失禁状況の入居者への排尿排便介助 身障者への歩行援助 入浴に平行する清しき洗髪介助 ねたきりになった者へのベッド上の体位交換 心の通じ合った家族への関係回復 個別状況の把握と生活を豊かに変えるケアプランの作成 死に対する不安への誠実な除去と肉体的痛みの緩和 死に行く者、残される者への祈り コミュニティ構成員だった者への厳肅な別れ 残された者悲しむ者への思いやりと故人への追悼 より良きコミュニティと生と死の研究教育講演活動 良質な専門的職員養成のためのカリキュラムの作成運営</p>	<p>コミュニティセンターサービスステーション、在宅ケアステーション、生活情報掲示板、放送テレビスタジオ、コンビニエンスストア、会議室、図書室 展示ギャラリー、アトリエ、ワークショップ、手芸室、集会室、図書室 ロビー、ホール、サロン、集会室、緑道、広場 会議室、サロン、カフェテラス ゲームルーム、娯楽室、サロン、カフェテラス カフェテラス、茶室、食堂、サロン 大浴場、クラブハウス、理美容室</p> <p>集会室、パーティールーム、サロン、娯楽室 集会室、和室、自治会室、会議室、霊安室、茶室</p> <p>入院室、自治会室、カウンセリングルーム、会議室、家族室 食堂、生活サービス事務所、一人用住居、二人用住居 厨房、配膳室、スタッフ会議室、スタッフルーム 生活サービスステーション、配膳室、業務用車両庫庫、居室、浴室便所 カウンセリングルーム、個人面談室、施設長室、応接室 非常監視室、住居ナースコール設備、診療所、医療機関消防所、救急移送車 診療所、ケアセンター 診療所待合ホール、診療所受付カウンター、診察室、検査室、医師控室 診察室、処置室、物療室、リハビリテーション室 病室、ナースステーション、配膳室、デイルーム、浴室、洗濯汚物処理室 温水プール、リハビリテーションホール、リハビリテーション室 病室、ケアールーム、一人用住居、二人用住居 食堂、デイルーム、ケアールーム、住居への在宅サービス、配膳室厨房 浴室、特殊浴室、介助浴室 病室、ケアールーム、在宅ケアステーション、便所、汚物処理洗濯家事室 スロー通路、散歩道、車椅子、リハビリテーション室 病室、ケアールーム、浴室、特殊浴室、介助浴室 病室、ケアールーム デイルーム、家族室 生活サービスオフィス、医師控室、会議室、資料室、研究室 入院室、病室、ナースステーション、近隣の神社仏閣教会 祈りの空間、近隣の神社仏閣教会 霊安室、告別儀式空間、和室、集会室、家族控室、司祭控室、霊柩車進入通路 祈りの空間、死者たちの記念館、葬祭空間、集会室、家族控室、共同墓地 研究所、講義室、研究室、図書館、研修室、会議室、和室、ゲストハウス 会議室、研修室、講義室</p>

の意味である。従って、一つの同じ空間に生きる人々は、共通の関係性を生きており、他者に対して、共通の態度と感性の関係を生きるものである。

3. 高齢者コミュニティ空間の生活機能の構成

空間構成の計画事例であるこの高齢者コミュニティ空間の施設計画は、事業者によって〈佐倉ゆうゆうの里〉と命名され、高齢者コミュニティ・マスタープラン委員会が事業者を議長として8名の建築家を委員として計画された⁸⁾。マスタープラン委員会は、1984年4月から同年12月まで、月に1回計9回にわたり開催された。このプロセスを経過して発見される生活機能を、私たちは関係構造のシステムによって序列化を行い、それらの機能相互の親和性によって類型化を行った。この計画事例における高齢者コミュニティの生活機能の分析と構成は次のように記述される。

(3-1) 一人の関係性の空間の生活機能

想像空間のコミュニティにおいて、私たちが発見する、生活機能の第一の秩序を構成するのは、個的な存在としての人間である私人が、全ての他者と自然的な諸物に開いて共に在り、行動する風景である。この関係性の空間では、まず、〈生命代謝活動〉があり、食べる、飲む、眠る等の類型化された機能が発見される。さらに、この関係性の特質は〈感覚的思索的〉であり、また、意欲し、行動して、〈自己充足〉を目指す生活機能が発見される。私と他者とは、自由と孤独の関係性において全く等しい存在であり、全ての他者や自然に開いており、それらの存在への共感として関係づけられている。その意味で、この関係性の空間で発見される機能は、〈孤独でしかも絶対的〉であり、それは原宗教的空間の機能として発見される。以上の一人の関係性の空間における発見される生活機能を類型としてまとめ、(表-1)に、関係構造一人の関係性の生活機能の発見として示している。

(3-2) 二人の関係性の空間の生活機能

建築家が、見出す生活機能の第二の秩序は、「私たち二人」の相互依存の関係構造における私が空間に見出す生活機能であり、一組の男女によって作られる家族の関係性の空間の生活機能である。

この関係性によって最初に発見される生活機能は、プライバシーの伴った家族の〈住まい〉である。またその対幻想の〈思い出、夢〉である。さらに、その幻想の基底である、〈愛〉であり〈憎悪〉である。また、時には、親しい人を〈接客し食事をし〉、〈訪問し、滞在する〉生活機能が発見されるはずである。また、自己の〈プライバシーの秘密〉を打ち明けることも、この関係性の生活機能の特質である。二人の関係性において発見される、以上の生活機能を類型として、分類してまとめ、関係構造二人の関係性の生活機能の発見として(表-1)に示した。

(3-3) 三人の関係性の空間の生活機能

想像空間の中で発見する第三の秩序の生活機能は社会的活動行為の在り方である。ここで発見される社会生活機能は、三者関係を同時に成立させる知的創造活動が媒介しているのが明らかであり、その意味において、コミュニティ空間の計画者である建築家も、想像のコミュニティ空間を構成する第三者という意味において、三人の関係構造の生活機能に限定すれば、将来の居住者と質的に等価な生活者としての存在理由を持っていることになる。

このような三人の関係性の空間概念の分析により、私たちは高齢者と職員とが、共に働き、共に生き、心身において看護し合う、社会的場において、発見する機能を〈コミュニケーション〉、〈出会い〉、〈会話、討議〉、〈楽しむ〉、〈解放感〉、〈祝祭、政祭事〉、〈看護、介助〉の類型としてまとめ、関係構造の三人の関係性の生活機能として(表-1)に示した。

4. 行為の背景空間と生活機能

(4-1) 典型空間と敷地の分節

関係構造のシステムによる空間想像から、個々に各々独立的に発見されてくる生活機能というものが、生活空間という全体性の内で相互に適切な位置を与えられるためには、空間と機能を結び付け、全体性と部分を結び付ける媒介的な空間構造の概念が必要である。

私たちが行動するのは、行動とは何の関係もない空虚な空間のなかではなく、行動との間に十分に規定された関係を持っている背景空間⁹⁾においてである¹⁰⁾。この背景空間において行動と空間の弁証法によって発見される生活機能とその背景空間は結び付くのである。行動と空間の弁証法によって発見される生活機能は、関係性の場という全体の中の「ここ」から「かしこ」へと方向づけられた行

図-1 典型空間による敷地空間の分節とマスタープラン

図-2 典型空間領域の地上レベル性と空中レベル性

(敷地東側南北方向縦断〈A-A〉断面図) 縮尺 1/1200

表-2 典型空間を媒介とする関係構造による生活機能空間の全体配置構成

空間位置		関係構造	生活機能空間区分
典型空間の位置領域	高さレベル		
表領域 全体空間の表層を形成する表に位置する動きの激しい領域	地上レベル 2階レベル 3階レベル以上	一人の関係 三人の関係 二人の関係 二人の関係	緑道（モール）、広場、展示ギャラリー、アトリエ、ワークショップ 緑道（モール）、広場、玄関ホール、生活サービスステーション、コミュニティ情報 掲示ボード、理美容室、展示ギャラリー、アトリエ、ワークショップ ゲストルーム、住居
奥領域 表を通過し、推移した先にある内部に向かって深く広がる内奥の場所	地上レベル 2階レベル 3階レベル	一人の関係 三人の関係 二人の関係 三人の関係 二人の関係 三人の関係	花壇テラス、祈りの空間、記念資料室 ケアセンター中庭 ケアセンター住居、家族室 ケアセンターサービスステーション、デイスペース（食堂）、浴室 ケアセンター住居、家族室 ケアセンターサービスステーション、デイスペース（食堂）、浴室
前領域 進入アプローチ方向に向かって、前へと運動を志向する敷地前部に位置する空間	地上レベル 2階レベル 3階レベル以上	一人の関係 二人の関係 二人の関係	駐車場、コンビニエンスストア、銀行コーナー 住居 住居
後領域 全体空間の背後に広がる敷地後部の南面した明るい空間	地上レベル 2階レベル 3階レベル以上	二人の関係 三人の関係 二人の関係 二人の関係	住居 桜の庭園 住居 住居
正面領域 空間形象としての正面性に基づく空間の方向軸の存在によって前方向の運動を指示すると同時に一定の静止状態を作り出し、その領域の象徴性を演出する	地上レベル 2階レベル 3階レベル	一人の関係 三人の関係 二人の関係 三人の関係 二人の関係 三人の関係	庭園の池、リハビリテーションホール 正面の庭園、コロネード、リハビリテーションホール ケアセンター住居、 ケアセンターデイスペース（食堂） ケアセンター住居、 ケアセンターデイスペース（食堂）
側面領域 正面への運動方向の自発性を残しつつ、徐々に奥行きへの運動の方向軸が存在する空間	地上レベル 2階レベル 3階レベル	一人の関係 二人の関係 三人の関係 二人の関係 三人の関係 二人の関係	診療所、研修室 カウンセラー室 会議室、研修室 ケアセンター住居、応接サロン ケアセンター浴室、応接サロン ケアセンター住居、 ケアセンターデイスペース（食堂）、ケアセンター浴室、理美容（エステ）室
動領域 外界の空間に分け入り、その動きと共に行動し、外界の知覚の変化が一定の時間の流れを生成している空間 表側に位置する動きの多い空間	地上レベル 2階レベル 3階レベル以上	一人の関係 三人の関係 一人の関係 三人の関係 二人の関係	緑道（モール）、広場、ピロティ、展示ギャラリー 緑道（モール）、広場、ピロティ、食堂、カフェテラス、生活サービスステーション、 展示ギャラリー アスレチックルーム、大浴場、図書室 アスレチックルーム、大浴場、和室 住居
静領域 外界により運動が止められ静止して永遠の解放が得られるかとも思える様な空間の状態	地上レベル 2階レベル 3階レベル	一人の関係 二人の関係 三人の関係 一人の関係 二人の関係 三人の関係 一人の関係 二人の関係 三人の関係	霊安室、洗濯室 霊安室 霊安室 リネン室、汚物処理室 家族室 ケアルーム、ケアセンターデイスペース（食堂）ケアセンターサービスステーション リネン室、汚物処理室 家族室 ケアルーム、ケアセンターデイスペース（食堂）ケアセンターサービスステーション
聖領域 空間的な聖別隔離により、広場や集会室に聖性が発生し、時間的聖別隔離により祝祭や祭礼が行われる。日常生活における神話的空間の形成	地上レベル 2階レベル 3階レベル以上	一人の関係 三人の関係 一人の関係 三人の関係 二人の関係	緑道（モール）、中庭、集会室 緑道（モール）、中庭、集会室 和室、図書室 CATVスタジオ、小会議室 住居
俗領域 日常的で生産的な生活や制度の空間	地上レベル 2階レベル 3階レベル以上	一人の関係 二人の関係 三人の関係 二人の関係	駐車場、サービスヤード、厨房 職員住居 住居、 大浴場 住居
活領域 流動して、止まらざる清く新しい空間	地上レベル	一人の関係 三人の関係	松林の庭園 松林の庭園、市民公園
寂領域 素直な静けさと共に自然に相対する時、存在の寂しいまでの奥行きを表わす空間	地上レベル	一人の関係 三人の関係	記念資料室、霊安室、調整池 クラブハウス、霊安室
開放領域 身体運動にしたがって、自己の世界が空間を支配するように整えられ、広がって行く空間形式。南に展望の開けた斜面	地上レベル 2階レベル 3階レベル以上	一人の関係 二人の関係 一人の関係 二人の関係 一人の関係 二人の関係	眺望の開けた住居 住居、職員住居 眺望の開けた住居 住居 眺望の開けた住居 住居
閉鎖領域 自然との直接的有機的結合を否定し、自然を内観の世界において象徴化した空間	地上レベル	一人の関係 三人の関係	散歩道、花壇、菜園 中庭
明領域 昼の世界、見えると思っている世界、日常の世界	地上レベル 2階レベル以上	一人の関係 二人の関係 三人の関係 二人の関係 三人の関係	温水プール 職員住居 温水プール ケアセンター個室住居 デイスペース、ケアセンターサービスステーション、浴室
暗領域 夜の世界、見えないものの世界	地上レベル	一人の関係	管理事務所、厨房、機室、サービスヤード、駐車場

動の、具体的で明確な背景を持った場所で発見されている。

それは行動の背景空間として空間の具体的質量と領域によって類型化された空間表情により構成されている空間である。

行動と空間の弁証法における私たちの身体は、そのつどの空間質量と配置の表情によって、空間構造の体制化を行い、行動の背景空間として全体空間から切り離しえない部分として、仮設的に「ここ」という場所を、「かしこ」の場所へと方向づけられた対になった空間構造とともに発見している。「ここ」という場所は、常に「かしこ」の場所との対的で相対的な関係における「ここ」の選択であり、また「かしこ」も「ここ」との対的な相対性における「かしこ」の生成である。行動の背景空間である「ここ」という場所は「ここ」から「かしこ」への方向性を持ち、同時に対的空間構造を形成している。

それは空間構成の過程においては、想像的空間における空間の質量と配置構成の試行錯誤の行為の過程を経て、行動と空間の弁証法を媒介とする、身体スケールと運動能力および表現能力による、自然的世界の仮設的な人間化の作業である。

この行動との間に十分に規定された関係を持ち、行動の背景空間としての具体的質と領域を構成している方向性と対的な空間構造を持つ背景空間を仮説として典型空間と定義する。

これによりここで記述されている空間構成の事例においては＜表と奥＞、＜前と後＞、＜正面と側面＞、＜動と静＞、＜聖と俗＞、＜活と寂＞、＜開放と閉鎖＞、＜明と暗＞の、8組16領域の対になった典型空間のシステムを選択し、マスタープランにおける敷地空間の質量と配置の分節構成を行っている。マスタープランとは、全体と部分の空間の関係性においてそれらの明確な外在的空間領域の構成を確定すること、すなわち敷地空間を分節することである。この敷地空間の分節構成が、＜典型空間＞の空間概念の外在的領域化である。行動と空間の弁証法という空間構造の本質的な弁証法的仮設性に基づく典型空間のシステムは空間構成において、想像的に「ここ」で生成されている空間の類型化された表情の固有性を表現しており、それは弁証法的な仮設性を本質的な構造としている。従ってここで選択されている8組16領域の典型空間のシステムは、空間構成の方法概念において、想像空間における弁証法的仮設性の空間論理としてのみ存在意味を有しているものであり、一般普遍的な存在としての空間を意味しているのではない。このようにして仮設的に領域化された典型空間を具体的な空間表情の質の概念的記述とともに、(図-1)及び(表-2)としてまとめている。

(4-2) 典型空間による機能分析

建築家による願望として、探し求められた生活諸機能が、新しく創造されてくる空間のなかで、現実に見られ、定着するかは、実証的には確かなことではない。しかし、想像空間のうちで、運動し、考え、発見した時の、その背景空間の表情というものが、的確に現実化されることが可能であれば、そこに住む人々が、その空間のうちで、建築家と同じ様な機能を見出し、それを引き出すことは、大いに有り得ることである。したがって、特定の生活機能は、あくまでも、全体空間の中で、最も似つかわしい場所におかれる必要がある。この全体と部分を結び付け、空間と機能を結び付ける媒介的な空間構造の概念が典型空間である。敷地空間の外在的領域のスケールを確定し分節した、表情と方向を持つ8組の仮説的に選択された

典型空間、すなわち、＜表と奥＞、＜前と後＞、＜正面と側面＞、＜動と静＞、＜聖と俗＞、＜活と寂＞、＜開放と閉鎖＞、＜明と暗＞という行動の背景空間の領域に、関係構造によって序列化され、行動と空間の弁証法によって発見された生活機能を重ね合わせて行くのである。

典型空間によって分節された空間は、空間の拡がりの領域の確定であり、それは地上レベルという大地の感覚と直結した空間性と、地上から浮上した、2階以上の空中レベルの空間性と言う、空間の位置のレベルの高さによって、空間断面的二つの空間性に分けられる²³。(図-2)

地上レベルの空間性は、自然的世界の現実感覚が強く支配する空間構造の特性を持ち、空中レベルの空間性においては、現実世界に、距離を取りながら、行動と空間の客観化や、思索化、抽象化が空間の志向性として現われる空間特性を持つ。

したがって、各生活機能の空間の位置を設定するに際しては、典型空間による領域化の内部において、地上性と空中性という、その高さレベルの空間断面の位置も各機能にふさわしく設定される必要がある。このようにして、典型空間の概念によって、分節された敷地空間の領域(図-1)に、ふさわしい生活機能(表-1)を分類分析し、各機能の位置を定めて行き、各生活機能の全体空間における配置構成を(表-2)として作成した。

結び

本稿の設計行為が目指すところは、目的手段系のシステムとして目的機能への適応性を秩序とする空間を構成するのではなく、身体による行動と空間の弁証法によって、全体空間が状況に応じて意味を湧出する空間構造を生み出すことにある。ここに現実に設置されている高齢者コミュニティ空間は過去9年間にわたり現在までそこに住む生活者の知恵と情熱と労働によって、さらに調整され、再構成され続けられている。今後は、この新しい生活者により発見創造されている空間の意味の実証的分析を通じて、設計方法概念の現実性の内実を分析し、生活空間の構成方法概念を弁証法的にさらに内実化させていくことが必要と考えられる。

注

注1) この論述に関しては、下記の既往研究論文を貴重な参考とさせて頂いた。論文タイトルを列記し、謝辞にかえさせて頂く。

石田敏他：終生の場に関する考察、日本建築学会計画系論文集、no.477,pp91-100,1995

Yang K他：療養生活をおくる高齢者の一日の生活実態とその類型化高齢者の療養環境の適正化に関する研究、日本建築学会計画系論文集、no.466,pp37-46,1994

注2) ケヴィン・リンチは著書「都市のイメージ(丹下健三他訳、岩波書店、1968)」pp.6において、「生き生きとした背景においては日々の同じ行為が新しい意味を持つことができるであろう」として、人間の行為と知覚している環境の物理的形態は相互関係を持つと指摘している。

注3) デンマークの建築家 J・ゲールはその著書「屋外空間の生活とデザイン(北原理雄訳、鹿島出版会、1990)」pp.122において地上レベルと2階以上のレベルとのコミュニケーションの可能性を実証的実験により報告している。

参考文献

- 1) 三宅英一郎、川崎清、増池正和：関係構造による生活機能分析のための方法概念の基礎的研究、日本建築学会計画系論文集第492号1997年2月pp241-247
- 2) ジョン・レックス(John Rex)：民族紛争と多元文化、朝日新聞、1995.9.24、朝刊13版
- 3) メルロ・ポンティ：行動の構造、みすず書房、1969、pp.247
- 4) オルテガ・イ・ガセット：大衆の反逆、白水社、1984、pp208
- 5) ibid., pp.205
- 6) 三宅英一郎：共存の空間、新建築、198808、pp.267
- 7) メルロ・ポンティ：知覚の現象学1、みすず書房、1969、pp232

[1997年6月6日原稿受理 1997年9月1日採用決定]